



この文章が掲載される時点では新しい年が始まっているが、令和2年、西暦2020年という年はまさに人類の歴史に残る年となるのは異論のないところだろう。中国発の新型コロナウイルス（COVID-19）は世界中の政治・経済・社会に多大な影響を与え、個々の人々の暮らしに大きな変更を余儀なくさせ続けている。この原稿を執筆している時点でこの感染症のもたらす災厄の将来像を見通すことは全く不可能である。

人類の歴史は感染症とともにあったが、世界的に政治・経済・社会に多大な影響を後世に与えたものとして真っ先に挙げられるのは、ペストとスペイン風邪だろう。本来伝染病を意味する plague がペストを意味するように、ペストは伝染病の代表である。何度かの流行があるが、最も有名なのは14世紀のそれであり、モンゴル軍の世界征服にともなって、ユーラシア大陸中央部から感染が拡散されたという説もある。世界総人口の約2割（約1億人）がペストにより死亡したと推計されている。ヨーロッパでは人口の激減（死亡率は約3割以上と推定）に伴い、農村の疲弊と都市部への人口移動が起き、カトリック教会権威の失墜やルネサンスの幕開けにつながり、近代ヨーロッパが始まったとされている。スペイン風邪は約100年前の1918～1919年にかけて世界中で流行したH1N1亜型インフルエンザの通称であり、アメリカ陸軍基地で最初の患者が確認され、感染者は5億人以上、死者は5,000万～1億人と推計されているが、高齢者ではなく青壮年に死者が多かったのが特徴である。ちなみに本邦の感染者数は約2,380万人、死者数は約38万人と報告されている。計3波の感染拡大が確認され、第2波で流行したウイルスが最も強毒性であった。スペイン風邪と称されるのは、スペインが第一次世界大戦の中立国であり、大戦参加国のようにこの感染症に関する情報規制を行わなかったなかで、スペイン国王自身が感染したことによる。流行当時は第一次世界大戦末期に相当するが、戦闘に従事するかあるいは徴兵対象となる青壮年男性に死者が多発したために大戦の終結が早まったという説もある。スペイン風邪によってGDPや個人消費の減少が長期化し、それは1929年の世界恐慌まで続いたとされる。世界恐慌から第二次世界大戦へと続く歴史の流れを考慮すれば、スペイン風邪の影響もペストに勝ると

も劣らないものがあるのは明らかであろう。

当時よりも人々の往来がはるかに頻繁となり、都市化密度がより高まった現代ではCOVID-19感染の影響はこの2つの感染症の政治・経済・社会に与えた多大な影響をしのぐ可能性が高いかもしれない。SNSなどの媒体の進歩は真実を伝えやすくする効果もあるだろうが、憶測が拡散されやすいことなどでより人々の不安心理を増す方向に働くのではないだろうか？ 幸いにして、ここ10年間ほど自殺者数の減少が続いていた本邦であるが、令和2年7月以降は対前年比で自殺者数が増加に転じたと報告されている。感染拡大防止と社会・経済活動の回復・維持は二律背反するところではあるが、今後の自殺者数の推移に目が離せない。

Biopsychosocialという言葉に示されているように、政治・経済・社会の変化に最も敏感に反応するのが精神疾患である。この原稿を執筆している2020年10月28日時点での全世界の累計感染者数は約4,400万人、死者数は約117万人となっており、前述したペストやスペイン風邪に比べると、感染者数および死者数はまだまだ桁違いに少ない。しかしながら、拙稿で取り上げた2つの感染症が人類史に与えた多大な影響に鑑み、今後長期にわたると推定されるCOVID-19感染による政治・経済・社会の変動に真っ先に翻弄される人々の心の支えのための大きな力となることを、われわれ精神科医に期待されていることを自覚すべきと考える。

## 参考資料：

森 友理，高橋 済：財務総研スタッフ・レポート 感染症の歴史—感染拡大要因と社会経済に与える影響—。財務総合政策研究所，2020年6月23日

門司 晃